

平成19年度機関評価結果対応方針

健康福祉部・衛生研究所

1 前回評価での指摘事項への対応状況

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 研究所の使命と連携	研究成果と行政業務を施策につなげるとともに、保健所を指導し、保健所機能の向上を図る工夫を更に行うことを望む。	今後も現在行っている保健所職員等への研修について、新たに保健所検査部門に導入される検査法に対する研修や危機管理、健康疫学等に関する研修などを計画するなど検討し、充実を図り、保健所の指導を行っていく。
② 存在のアピール状況	調査結果の整理については、できるだけ速やかにまとめ、どのニーズに対しての調査研究なのか対応する形で明示することが望まれる。	今後も県民向けの公開講座の充実やホームページの充実に努めるとともに、更に説明方法の向上に努力し、引き続き、衛生研究所の存在意義のアピールと県民ニーズの把握に努める。

2 県民や社会のニーズへの対応について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 行政課題の明確化	各保健所からの当研究所に対する要望調査を定期的に取りようにし、行政課題を明確化することが肝要である。	保健所等の職員研修などを通じて、保健所の意向の把握に努めていく。

3 研究遂行に係る環境について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 研究予算への配慮と積極的な予算要求	外部資金に頼らない自発的な研究を促し、研究者の士気を高め、結果的に更により成果を得るためにも、予算への配慮が必要である。	部としては、配慮するよう検討する。
	研究所においては、従来の価値観から脱却し、活動理念を具体的な戦略思考で整理し、重要なテーマについて活動計画書を作成の上、主務課に提出し、重要なテーマの予算など必要な予算は積極的に要求を行っていくべきである。	県への予算要望にあたり、活動計画書等の作成も含め、県予算の獲得について、主管課等に働きかけていきたい。

② 効率的な研究環境の再整備	がんセンター研究局との合築による新庁舎への移転に向けて、ニーズに対する研究課題も念頭において組織の再編成と人材確保を含めた予算の策定を検討し、効率的な研究環境を再整備することが肝要である。	新庁舎への移転に向けて、研究所の組織再編について検討し、効率的な研究環境の再整備を図っていく。
③ 医師の確保	県民の健康に関わる研究機関である以上、現状の医師1名では明らかに不足であり、公衆衛生に理解ある医師の確保に県は努力すべきである。	県民の健康に関わる研究機関であることから、研究所の人員構成については、公衆衛生に理解ある医師の確保を部として検討する。
④ 合築の際の実験研究の独立性の保持	がんセンター研究局との合築に関し、それぞれの実験研究の特性や安全性を考えた上での独立性が保たれるよう要望する。	合築にあたっては、それぞれの特性に応じて、独立性が保たれる方向で進めている。

4 研究成果について

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
② 研究成果の公表の充実と県民へのアピール方法の工夫	研究内容を対外的に広く公表する努力が必要である。また、研究内容を県民に向けアピールする方法については、更なる努力、工夫が必要である。	今後も、研究内容を学会や研究会、英文誌を含む専門誌などで発表する努力を行い、対外的に広く公表するなど努める。 また、研究成果についてホームページ、公開講座を活用し、県民に広くアピールしていく。
③ レジオネラ検査方針への疑問点	県は、レジオネラの通常検査を縮小して外部委託とし、緊急対応時にのみ対応する方針は、県が行うべき健康危機管理対策上、逆行するものではないかと考える。	健康危機発生時の対応に考慮し、浴槽水等についての検査を実施する。

5 研究開発以外の業務について

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 研修プログラム開発とフォローアップ	各保健所の職員が定期異動により交替することを考慮した研修プログラムの開発と実施を行うことが必要である。 また、県民にダイレクトに接点をもつ保健所職員のレベルを維持するようフォローアップの仕組みを併せて検討することが肝要である。	保健所の検査体制が変更される予定であり、新体制に適合し、かつ、フォローアップ可能な研修制度を検討する。

③ 地域レベルでの国際研修の重要性	本来業務に支障のない範囲で、海外の研修生を積極的に受け入れていただきたい。	県の担当部局から要望があれば検討していきたい。
-------------------	---------------------------------------	-------------------------

6 今後の研究の方向性について

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 研究テーマの明確化と組織編成の検討	県民ニーズや社会ニーズの分析としての研究テーマを明確化し、それに対応する組織編成を検討することが必要である。	県民ニーズや社会ニーズ等に対応すべき組織編成を検討していく。
② 研究と県民ニーズ	先端的な研究や委託研究に加え、がんセンターとの合築の機会も活用し、千葉県の特異性を反映した研究を中心に、千葉県に特に関わりの深い研究が一層増えていくことを期待する。	今後も県民ニーズや社会ニーズの把握に努め、県民生活に反映する研究にも重点的に取り組んでいく。

8 総括

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 県民への存在のアピールの必要性	千葉県衛生研究所の存在のアピール方法について更に工夫をし、情報提供を行うことが必要である。	県衛生研究所における研究及び通常業務遂行のレベルについて、県民に理解されるよう、また、存在のアピール方法についてホームページ、公開講座の活用などにより更に工夫をし、情報提供を行っていく。
② 新体制の整備	新庁舎で基本的使命を効果的にはたすことのできる組織をつくり、スムーズかつ効果的なスタートを行える準備をすることが肝要である。	新庁舎の建設を見据えて、組織の再編についても検討していく。
③ 研究費配分への配慮	県は、千葉県衛生研究所が高いレベルで研究、業務を行っていることを理解し、支持をすべきである。そのためには、県民ニーズにあった研究、成果の上がりつつある研究に対しては、競争資金獲得へ理解を示すとともに、担当スタッフの士気が上がるよう県における研究費配分への配慮なども行うべきである。	部として予算配分については要望を行なっていく。

<p>④ 優秀な人材の確保と保健所職員のレベルアップ</p>	<p>現在不足していると思われる医師の確保や今後世代が代わっていく研究スタッフの育成など具体的な方策を立てることが極めて重要である。</p> <p>また、併せて保健所職員のレベルアップを計画的に行う工夫が必要である。</p>	<p>組織及び人事の編成にあたって、医師や研究スタッフの計画的な採用について人事担当部局への要望を行っていく。</p> <p>また、保健所検査部門に新たに導入される検査法に対する研修や危機管理、健康疫学等に関する研修を担当部局と共同で行い、レベルアップを計っていく。</p>
--------------------------------	--	---